

お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園・授業者：遠野市立遠野中学校・似内 美奈子

2. 学年・教科等・単元等：中学校第2学年・数学科・「確率」

3. 基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校

4. 基にした実践：「いかさまダイス」

〔 お茶の水女子大学附属学校園教材論文データベース 〕

5. 実践の概要

令和2年2月に実践した。藤原先生の「生徒の経験に基づく素朴な問いから実験の目的を設定すること」、「実験の結果の意外性から驚きを生むこと」ということに共感し、実践したいと思った。ペアもしくは3人でのグループで実験を行い、データを多数回得られるようにした。いかさまダイスが混じっていることを生徒に伝えないまま実験をし、生徒が感覚的に捉えている「さいころのある目の出やすさは $1/6$ であること」に反する実験結果に疑問を感じさせ、考察する必要性を持たせようとした。



6. 実践してみた感想など

実験を行ううちに、予想に反する結果になるグループが出てきたことで、さいころに仕掛けがあることに生徒が気が付いた。グループ毎に得たデータを集計したものを考察する際に、いかさまダイスが混じったままの集計データと、いか

さまダイスを除いたていた集計データを比較させた。いかさまダイスの実験データを取り除くと、「ある目の出やすさ（相対度数）」が $1/6$ になることを数値とグラフ（教師がパソコンで操作）で確認できた。

次回行うときには、相対度数をグラフにする活動も生徒に委ねたい。